

第32回環境保全・公害防止研究発表会の概要

千葉県環境研究センター

環境省、全国環境研協議会および千葉県の主催により、第32回環境保全・公害防止研究発表会が平成17年11月10日(木)、11日(金)の両日にわたって開催されました。

第1日目は、千葉市文化センター3階アートホールにおいて、主催者の挨拶、続いて特別講演および研究発表が行われ、第2日目は引き続き研究発表が行われました。第1日目および第2日目とも会員、行政機関等から約200名延べ400名の参加があり、成功裡に終了しました。

1. 主催者あいさつ

開会に当たり、主催者を代表して環境省総合環境政策局総務課の宇仁菅環境研究技術室長(桜井大臣官房審議官の代理)、全国環境研協議会の長谷川会長、千葉県の米田環境生活部長からそれぞれ

あいさつがありました。概要は以下のとおりでした。

○宇仁菅室長あいさつ

本日はご多忙の中、本研究発表会に全国各地から大勢の皆様にお集まり頂きまして誠にありがとうございます。

今日の環境問題は、私たちの日常生活、あるいは、通常の事業活動から生じる環境への負荷が積み重なることによって引き起こされています。この問題を克服するためには、私たちのライフスタイルや事業活動のあり方を見直し、社会のあり方そのものを持続可能なものへと変えていかなければなりません。環境省では、この持続可能な社会の実現をめざしてさまざまな施策を推進しておりますが、これらの施策を進める際に欠かせないのが環境と経済の統合という視点ではないかと考え



主催者を代表してあいさつをされる宇仁菅環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室長



主催者あいさつをされる長谷川全国環境研協議会会長



開催県を代表してあいさつをする米田環境生活部長

第 32 回環境保全・公害防止研究発表会日程表

平成17年 11月10日(木)	千葉市文化センター(3階アートホール) ○開会(13:30~13:45) 開会のことば 千葉県環境研究センター長 小川 功 主催者挨拶 環境省大臣官房審議官 桜井 康好 (代理 環境研究技術室長 宇仁菅伸介) 全国環境研協議会会長 長谷川 猛 千葉県環境生活部長 米田謙之輔 ○特別講演(13:50~15:00) 演 題 「京都議定書と温室効果ガスインベントリ」 講 師 相沢 智之(国立環境研究所地球環境研究センター温室効果ガス インベントリオフィス(GIO) リサーチャー) 座 長 長谷川 猛(全国環境研協議会会長 東京都環境科学研究所長) ○研究発表会(15:10~16:10) ○大気Ⅰ											
平成17年 11月11日(金)	研究発表会 <table border="1" data-bbox="319 784 1212 1128"> <tr> <td data-bbox="319 784 765 890">第1会場 (千葉市文化センター9階会議室)</td> <td data-bbox="772 784 1212 890">第2会場 (千葉市文化センター14階商工会議所第2ホール)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="319 900 765 938">○大気Ⅱ(9:30~10:50)</td> <td data-bbox="772 900 1212 938">○環境生物(9:30~10:50)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="319 948 765 1035">○大気Ⅲ(11:00~12:20) (昼食・休憩)</td> <td data-bbox="772 948 1212 1035">○水質Ⅰ(11:00~12:20) (昼食・休憩)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="319 1045 765 1074">○化学物質Ⅰ(13:20~14:40)</td> <td data-bbox="772 1045 1212 1074">○水質Ⅱ(13:30~14:50)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="319 1083 765 1122">○化学物質Ⅱ(14:50~16:10)</td> <td data-bbox="772 1083 1212 1122">○水質Ⅲ(15:00~16:20)</td> </tr> </table> ○閉会 第2会場(16:20~16:30) 閉会挨拶 環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室長 宇仁菅 伸介 (代理 環境研究技術室室長補佐 片山 雅英) 次期開催県挨拶 新潟県保健環境科学研究所所長 小柳 勝彦		第1会場 (千葉市文化センター9階会議室)	第2会場 (千葉市文化センター14階商工会議所第2ホール)	○大気Ⅱ(9:30~10:50)	○環境生物(9:30~10:50)	○大気Ⅲ(11:00~12:20) (昼食・休憩)	○水質Ⅰ(11:00~12:20) (昼食・休憩)	○化学物質Ⅰ(13:20~14:40)	○水質Ⅱ(13:30~14:50)	○化学物質Ⅱ(14:50~16:10)	○水質Ⅲ(15:00~16:20)
第1会場 (千葉市文化センター9階会議室)	第2会場 (千葉市文化センター14階商工会議所第2ホール)											
○大気Ⅱ(9:30~10:50)	○環境生物(9:30~10:50)											
○大気Ⅲ(11:00~12:20) (昼食・休憩)	○水質Ⅰ(11:00~12:20) (昼食・休憩)											
○化学物質Ⅰ(13:20~14:40)	○水質Ⅱ(13:30~14:50)											
○化学物質Ⅱ(14:50~16:10)	○水質Ⅲ(15:00~16:20)											

ております。環境問題への積極的な取組みは新たな投資や技術革新を生み出し、雇用の創出や地域の活性化をもたらすことにつながります。

環境をよくすることが経済を発展させ経済の活性化が環境を改善するという好循環を生み出すことが重要ではないかと考えております。そのためには、基礎基盤となる環境研究、技術開発の一層の推進が不可欠であると考えております。とくに、地域における環境研究、技術開発につきましては、先進的な環境技術の具体的な開発普及や地域環境ビジネスの活性化につながる取り組みが重要であると考えております。

地方には環境研究の対象としてのフィールドが多数ありますし、地方公共団体の環境研究所には地域の環境状況に精通した研究者が多くおられます。これまで培ってこられた分析技術や蓄積されたノウハウを最大限に活用して環境研究、技術開発に取り組みれるということは、多様化する環境問題の解決につながる意義の深いものになるわけでございます。今後ますますその役割は期待されるところではないかと思っております。

環境省におきましては、今年度から競争的研究資金の1つとして環境技術等推進費に地域の独自性・特殊性を生かした研究技術開発の課題枠を創

設したところですが、今後とも全国環境研協議会および会員機関の皆様と連携を図りながら環境研究、技術開発の一層の推進に取り組んでまいりますので、さらなるご尽力をお願いいたします。

○全国環境研協議会長谷川会長あいさつ

まず、研究発表会の開催にあたりいろいろご尽力をいただきました環境省環境研究技術室ならびに千葉県環境研究センターの皆様方に感謝をいたします。

21世紀は環境の世紀といわれておりますけれども、その幕明けは私ども地方環境研究機関にとっては中々厳しい状況となっております。一つには組織の見直しや業務内容の見直しを迫られているということ。もう一つは民間の試験研究機関が発展してきて役割分担というものを求められている時代になってきていることだと思います。

これからはフィールドを生かし、行政施策とより密着した研究をやっていかなければならないのではないかと。さらには、大学あるいは民間会社と協調して、マネジメントとかそういうものを含めて、効率的・効果的な共同研究を推進していかねばならないと思っております。行政部門では異動が激しく専門家といわれる方が減ってきている状況の中で、皆様に期待されるころは非常に大きいのではないかと考えております。

この研究発表会は各地方の生の声が聞けるよい機会ですので、有益な情報を入手され、それを生かし、各地方の環境問題のエキスパートという形で活躍されることを期待しております。

○千葉県米田部長あいさつ

本当に千葉県によくこそおいで下さいました。誠にありがとうございます。

環境問題というのは、かつては、出す側と被害を受ける側とが割と地域的にあるいは人的に限定されていて公害問題といわれておりましたけれども、今は加害者も被害者であり、被害者も加害者であるという複雑な状況になってきております。そのような中で、行政ニーズと県民のニーズをどのように合わせて研究していくのか、皆さんご苦労されていることと思います。

千葉県は知事が変わり行政のやり方が変わりました。一つは三番瀬があります。とくにおもしろいのは、官がまったくリードせずに、選ばれてき

た一般の人たち、研究者の人たち、NPOの人たち、そういう人たちが侃侃諤諤(かんかんがくがく)議論する、そういうプロセスを踏んで新しい行政の計画ができていくというところでは地方自治の一つのあり方の試金石ではなかったかと私は思っております。

もう一つはNPOです。NPOを育て、協働していくことが一つの新しい地方行政のあり方ではないかということで、千葉県ではそれに力を入れているところでは。民間の研究機関の団塊の世代の人たちがお辞めになられたとき、多分、ノウハウを生かしたNPOを作るようになるだろうと思っております。そうすると行政との間で新しいコラボレーションが出てくる可能性があるのではないかと私は非常に期待しております。

これからは、考え方の変換をしながら新しい世代、新しい世紀に向かっていかなければならないのではないかと感じております。

2. 特別講演

国立環境研究所地球環境研究センター温室効果ガスインベントリオフィス(GIO)リサーチャー相沢智之氏により「京都議定書と温室効果ガスインベントリ」について特別講演が行われました。

3. 研究発表

2日間にわたり、35名の方から以下のとおり研究発表が行われました。

(1) 第1日目

(千葉県文化センター3階アートホール)

○大気 I 15:10~16:30

座長：末富良次(北九州市環境科学研究所)

A-1 ヒートアイランド対策としての屋上緑化
—大阪市役所屋上緑化施設における気温と熱流の測定—

梶元慶子(大阪市立環境科学研究所)

A-2 島根県における大気中代替フロン類濃度の推移

黒崎理恵ほか(島根県保健環境科学研究所)

A-3 温暖化対策としての打ち水・散水によるクールアイランド効果について

藤崎進ほか(富山県環境科学センター)

B-4 固相吸着-大容量注入-異性体指標法を用い

た環境大気中ダイオキシン類の簡易分析
 谷崎定二ほか(北九州市環境科学研究所)
 ※発表日時を第1日目に変更した。

(2) 第2日目

(第1会場：千葉市文化センター9階会議室)

○大気Ⅱ 9:30~10:50

座長：串田光祥

(香川県環境保健研究センター)

A-4 日本における光化学オキシダント等の挙動
 解明に関する研究

山川和彦ほか(京都府保健環境研究所)

A-5 北九州市における非メタン系揮発性有機化
 合物(NMVOC)の実態調査(その2)

末富良次ほか(北九州市環境科学研究所)

A-6 固定発生源周辺地域における粒子状物質の
 動態解析

飯島明宏ほか(群馬県衛生環境研究所)

A-7 SPM測定機のテープろ紙中の黄砂成分の
 挙動について

奥村秀一ほか(富山県環境科学センター)

○大気Ⅲ 11:00~12:20

座長：山川和彦(京都府保健環境研究所)

A-8 揮発性有機化合物(VOC)汚染解析に対する
 パッシブサンプリング法の実証化研究

柳川正男ほか(福岡県保健環境研究所)

A-9 大気VOC分析機器室における室内汚染

前田泉ほか(岡山県環境保健センター)

A-10 畜産系コンポスト処理時の臭気低減化に
 関する研究(Ⅱ) —残留臭気の高減化(二
 次処理)に関する研究—

串田光祥ほか

(香川県環境保健研究センター)

A-11 交通騒音評価管理システムの実証的検討

濱名徹ほか(宮城県保健環境センター)

○化学物質Ⅰ 13:30~14:30

座長：宇佐見義博(愛知県環境調査センター)

B-1 日本におけるギンブナ中のダイオキシン類
 蓄積量調査

梶原葉子ほか(北九州市環境科学研究所)

B-2 ざざ虫を用いた河川のダイオキシン類モニ
 タリングとその起源の推定について

村瀬秀也ほか(岐阜県保健環境研究所)

B-3 ケミカルハザード施設内におけるダイオキ

シン類濃度

下田喜則ほか(広島市衛生研究所)

○化学物質Ⅱ 14:50~16:10

座長：村瀬秀也(岐阜県保健環境研究所)

B-5 標準物質不要の化学物質一斉分析用データ
 ベースについて

陣矢大助ほか(北九州市環境科学研究所)

B-6 中国及び我国における環境中の有機性汚染
 物質の現状比較

安部隆司ほか

(岩手県環境保健研究センター)

B-7 環境大気中の1,3-ジクロロプロペンの分析
 法の検討と実試料への適用

宇佐見義博ほか(愛知県環境調査センター)

B-8 GC/MSによる農薬の多成分同時分析法の
 検討

浦山豊弘ほか(岡山県環境保健センター)

(3) 第2日目

(第2会場：千葉市文化センター14階

商工会議所第2ホール)

○環境生物 9:30~10:50

座長：松本光弘

(奈良県保健環境研究センター)

C-1 港湾環境における生態学的環境修復技術に
 ついて

田中和彦ほか(北九州市環境科学研究所)

C-2 東京都沿岸域に生息する魚類の精巣卵

和波一夫ほか(東京都環境科学研究所)

C-3 愛媛県内ため池における外来生物の生息実
 態について

高松公子ほか(愛媛県立衛生環境研究所)

C-4 奥秩父亜高山帯のシラビソ立枯れ実態とそ
 の要因

小川和雄ほか

(埼玉県環境科学国際センター)

○水質Ⅰ 11:00~12:20

座長：門木幸幸(鳥取県衛生環境研究所)

D-1 環境基準値超過水域原因究明調査

瀧本俊晴ほか(静岡県環境衛生科学研究所)

D-2 イオンクロマトグラフによる公共用水域の
 亜硝酸性窒素とアンモニア性窒素の測定法
 の検討と窒素化合物の挙動

松本光弘ほか

(奈良県保健環境研究センター)
D-3 大東川の水質汚濁に関する原因調査について
片山正敏ほか

(香川県環境保健研究センター)
D-4 川崎市の地下水及び公共用水域における要
監視項目の実態調査

西村和彦ほか(川崎市公害研究所)

○水質Ⅱ 13:30~14:50

座長：和波一夫(東京都環境科学研究所)

D-5 土壤汚染対策法に基づく土壤溶出量調査及
び含有量調査の問題点と現状

巽正志ほか(三重県科学技術振興センター)

D-6 都市のため池の集水域の環境と水質特性に
ついて 一名古屋市の事例一

土山ふみほか(名古屋市環境科学研究所)

D-7 生活用品による汚濁負荷量調査

上治純子ほか(千葉県環境研究センター)

D-8 地理情報システム(GIS)を用いた水質汚濁
負荷量の推定について

山田肇ほか(石川県保健環境センター)

○水質Ⅲ 15:00~16:20

座長：西村和彦(川崎市公害研究所)

D-9 環境流出物の分析法の基礎研究

望月映希ほか(山梨県衛生公害研究所)

D-10 新規ゴルフ場使用農薬の分析と水中におけ
る挙動

中山将人ほか(富山県環境科学センター)

D-11 休廃止鉱山坑廃水からの銅の選択的な回収
門木秀幸(鳥取県衛生環境研究所)

D-12 液体クロマトグラフィー／質量分析法によ
る水中臭素化難燃剤などの分析

長谷川敦子(神奈川県環境科学センター)

4. 閉 会

閉会にあたり、環境省総合環境政策局総務課環
境研究技術室片山室長補佐(宇仁菅環境研究技術
室長の代理)および次期開催県の新潟県保健環境
科学研究所小柳所長からあいさつがありました。
その概要は次のとおりです。

○片山室長補佐あいさつ

2日間にわたる発表会では地方環境研究所の皆
様から最新の研究成果が発表され、実りある議論
がされたものと思います。これもひとえに各発表

者ならびに座長の皆様のご努力の賜物と存じま
す。また、昨日の特別講演では温室効果ガスの削
減対策を実施する上で基礎となります温室効果ガ
スインベントリにつきまして、最新の知見を伺う
ことができました。国と地方公共団体の環境保全
に関する研究の総合的な推進を図るといふ本研究
発表会の目的は十分に達成されたのではないかと
考えております。地方環境研究所におきまして研
究の最前線で活躍される皆様の日頃のご努力に対
し心から敬意を表しますとともに、本研究発表会
の開催にご尽力いただきました千葉県の関係者の
皆様に厚くお礼を申し上げます。

最近の国におきます動向を若干ご紹介いたしま
すと、科学技術基本計画の計画期間が今年度で終
了いたしますことから、現在新たな計画の策定作
業が進められております。また環境基本計画につ
きましても同様に見直しの作業が進められてお
り、環境分野の研究技術開発の具体的な推進戦略
を示す必要があると考えております。

地方環境研究所におかれましても地域の環境行
政を支える科学技術面の基盤組織として一層の体
制整備等に努めていただき、その得意分野に配慮
した人材を活用して地域に密着した環境研究をさ
れることを期待しております。そうした意味でも
地方環境研究所の皆様が一堂に会します貴重な機
会である本研究会を今後も開催させていただき
たいと考えております。次期開催県と聞いておりま
す新潟県および全国環境研協議会の皆様には引き
続きご協力をお願いいたします。

○次期開催県あいさつ

来年は新潟県で開催することをお引き受けしま
したが、本県でも厳しい財政状況の中で行政経営
改革の取組みが進められており、私どもの研究所
につきましても地方独立行政法人化ということ
で、地方環境研究所の使命はどうあるべきかとい
うことが厳しく議論されている状況であります。
こうした時期に発表会が開催されるということは
非常にタイムリーなことと喜んでおります。

来年の発表会では今年以上に多くの先進的な取
組みが発表され、皆様方の輪が広がるとともに、
環境研究、環境技術の推進がますます広がる機
会にしたいと思っておりますので、多くの皆様にご
参加いただきますようお願い申し上げます。